

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 5 号	氏 名	朱 偉
審 査 委 員		主 査 氏 名	三 澤 尚 明
		副 査 氏 名	茅 峰 潤 三
		副 査 氏 名	林 哲 也
[論文題名]			
ウシ属におけるパピローマウイルスの多様性に関する研究 Studies on the Diversity of Papillomavirus in <i>Bovinae</i> Characterization of novel bovine papillomavirus type 12(BPV-12) causing epithelial papilloma (Archives of Virology, 157(1): 85-91, 2012) Bos grunniens papillomavirus type 1: a novel deltapapillomavirus associated with fibropapilloma in yak (Journal of General Virology, 94(Pt1): 159-165,2013) Bovine papillomavirus type 10 with a deletion associated with a lingual papilloma in a cow (The Veterinary Journal, accepted)			
[要 旨]			
牛パピローマウイルス (BPV) は、牛乳頭腫の原因となる小型球形の DNA ウイルスである。BPV は牛の体表皮膚や上部消化器粘膜、膀胱粘膜に感染し、感染部位に乳頭状または樹枝状の腫瘍性病変をつくる。体表部に形成されるものは、一般に良性だが、消化器粘膜や膀胱粘膜に形成される乳頭腫は悪性化して個体を死に至らしめる場合がある。BPV はこれまでに 10 以上の型が存在すること、それぞれの型により感染部位親和性があり腫瘍の悪性度が異なることが知られている。近年、牛群内で集団発生し、自然治癒が期待できない乳頭腫の増加がみられ問題となっている。本研究では、ウシ科動物に多発する牛乳頭腫に着目し、それらの原因ウイルスについてゲノム解析により分類した、その結果 2 種類の新型 BPV 即ちウシパピローマウイルス 12 型とヤクパピローマウイルス 1 型を発見した。さらに、牛の口腔内粘膜の乳頭腫病巣から、一般には皮膚体表部に乳頭腫を形成するとされる牛パピローマウイルス 10 型と極めて相同性の高い遺伝子構造を有し、一部ゲノムが欠落したと思われるウイルスを検出した。これら一連の研究は、ウシ亜科内のパピローマウイルスの遺伝的多様性を示すと同時に、牛乳頭腫の病原性についての更なる情報を提供するものであり、学位論文に値するものと判定した。			